

HOKU・GEN・KON REPORT

巻頭インタビュー

第7次エネルギー基本計画と 日本の脱炭素化について

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
電力ユニット原子力グループ 兼 研究戦略ユニット研究戦略グループ
主任研究員 **木村 謙仁** 氏

ニューク

ほく・げん・こん

会報誌

48

2025.4月発行

見学会レポート

放射線について知ろう！ 金沢大学アイソトープ 総合研究施設見学会

見学会を実施して

元金沢大学 疾患モデル総合研究センター疾患解析プロープ・
ケミカル分野 アイソトープ総合研究施設 施設長

木村 寛之 氏

見学会に参加して

北陸学院中学校 教頭
岡崎 裕一 氏

「S+3E」の再構築



バランスのとれたエネルギーミックスを目指して

第7次エネルギー基本計画と日本の脱炭素化について

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
電力ユニット原子力グループ 兼 研究戦略ユニット研究戦略グループ
主任研究員 木村 謙仁 氏



そもそも「エネルギー基本計画」とは どういうものなのでしょうか？

「エネルギー基本計画（通称：エネ基）」とはその名の通り、日本のエネルギー政策の基本的な方針を明文化したものです。2002年のエネルギー政策基本法によって、少なくとも3年ごとに策定しなければならないと定められました。この計画に基づいて、個別の具体的なエネルギー政策が決められていくこととなりますので、どのような記述が盛り込まれるかは極めて重要な意味を持ちます。

第1次エネルギー基本計画は2003年10月に閣議決定され、その後国内外の情勢変化を踏まえながら複数度にわたって策定されてきました。最新版は2025年2月に閣議決定された第7次計画となります。第1次計画の時点で、「安定供給の確保」「環境への適合」「市場原理の活用」が大目標として掲げられ、また安定供給にあたっては「安全の確保」も重要とされています。これらは2014年4月に閣議決定された第4次計画において、「安全性（Safety）を前提とした上で、エネルギーの安定供給（Energy Security）を第一とし、経済効率性の向上（Economic Efficiency）による低コストでのエネルギー供給を実現し、同時に、環境への適合（Environment）を図る」、すなわち「S+3E」という形に整理され、最新の第7次計画に至るまで、日本のエネルギー政策の最上位目標とされてきました。

第6次計画からの主な見直し点と その背景、また、検討に際しての 主な論点をお聞かせください。

2021年10月に閣議決定された第6次エネルギー基本計画でも、上記の「S+3E」が最上位目標として位置付けられましたが、この時の議論では気候変動（地球温暖化）対策、すなわち「3E」のうち「環境への適合」に一際重点が置かれていました。しかし、その後エネルギーをめぐる状況は大きく変わっています。特に、2021年頃から始まった世界的な化石燃料価格の高騰や、2022年からのロシアによるウクライナ侵攻をきっかけに、エネルギー安全保障や安定供給の問題が改めて重要視されるようになりました。

こうした状況を受けて、今回の第7次計画策定に向けた議論の中では、必要なエネルギーの確保や適正な価格での供給を重視すべきとの意見が多数あげられました。また、世界中で情報技術が急速に発展し、生成AIやデータセンターなどの利用拡大が今後一層進むと見込まれることから、省エネルギーの進展を加味したとしても、電力需要は将来に向けて増加していくのではないかとこの見通しも示されました。これらの論点は三つの「E」のうち「安定供給」と「経済効率性」にあたります。そして、気候変動対策もまた世界にとって喫緊の課題であり、日本としても2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、脱化石燃料の取り組みを一層野心的に進めていかなければなりません。

このような背景から、第7次計画は改めて「3E」の取り組みをバランス良く進めていくことに主眼を置いて

取りまとめられました。もちろん、安全性（「S」）の確保が前提であることに変わりはありません。そのように考えた結果、特定のエネルギーに過度に依存しないエネルギーミックスを追求することとなりました。再生可能エネルギーは総発電量のなかで最大の割合を占める主力電源とし、原子力も安定的な準国産エネルギーとして必要な規模を持続的に活用していくとされています。それに伴い、「可能な限り依存度を低減する」という第6次計画の記述は削除されました。また、既設炉については再稼働の加速に向けて官民を挙げて取り組む旨が記載されたほか、廃炉を決定した事業者を対象として、「次世代革新炉」への建て替えについても言及されました。

第7次計画と同時に発表された付属資料では、2040年度におけるエネルギー需給の見通しが示されています。第6次計画では2030年度を対象としていたので、より先を見据えたものになったといえます。また、将来必要な発電量については、現在の1.1倍から1.2倍程度まで増加するという見通しを立てています。第6次計画では将来的に減少していく見通しであったため、これは特に大きな変化です。加えて、将来の不確実性を考慮して複数のシナリオを検討した結果、電

源の内訳はある程度幅を持たせたものとなりました。図1は第6次計画と第7次計画で示された将来のエネルギー需給見通しのうち、電源構成に関するものを抜粋し、比較したものになります。

同日に閣議決定された「地球温暖化対策計画」、「GX2040ビジョン」とどのような関係があるのでしょうか？

温室効果ガスの多くはエネルギー利用に伴って排出されているので、エネルギー政策と温暖化対策は互いに整合している必要があります。そのため、今回の第7次計画は温暖化対策の総合計画である「地球温暖化対策計画」と並行して策定が進められ、同日に閣議決定されました。この計画では新たな目標として、温室効果ガス排出量を2035年度までに2013年度と比較して60%、2040年度までに73%削減することが決定されており、これは第7次計画の側でも言及されています。前掲の2040年度需給見通しも、この削減目標を踏まえて作成されたものになります。

また、化石燃料から脱炭素エネルギーへの移行、すなわち「グリーントランスフォーメーション（GX）」は政策的に支援する必要があると同時に、これを産業

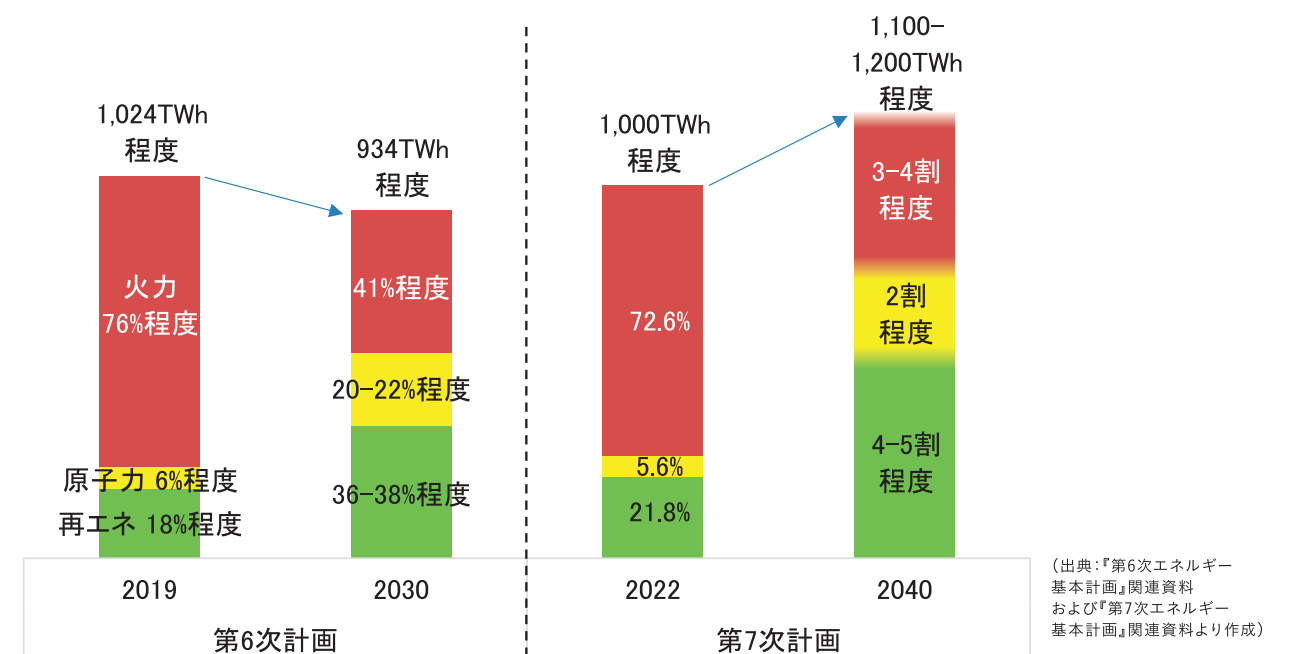


図1. 第6次計画および第7次計画における、将来の電源構成見通し

の成長機会として活用することも重要です。その基本方針は「GX推進戦略」として2023年7月に閣議決定されていますが、これをより具体化させた「GX2040ビジョン」もまた、今回の第7次計画と同日に閣議決定されました。主な内容としては、企業のGXに向けた投資を後押しするため、10年間で20兆円規模の支援を行うことや、そのための財源確保を兼ねて近い将来、炭素排出量に対する賦課金を課すこと、逆に設定された目標以上に排出量を削減できれば、その削減量を販売して利益を得られるようにすること、などがあげられます。

これらの計画やビジョンが、日本の産業活動や国民生活にどう関わってくるのでしょうか？ また計画実現に向けての今後の課題についてお聞かせください。

「第7次エネルギー基本計画」「地球温暖化対策計画」「GX2040ビジョン」という三つの大きな政策文書が固まったことで、今後の日本における産業活動には、今まで以上に脱炭素化を進める必要性とインセンティブが生じると考えられます。特にGX2040ビジョンの項で述べた通り、企業の脱炭素化に向けた行動は強力に支援される一方で、その取り組みが十分でない企業にはペナルティが生じることから、「飴と鞭」で企業の行動を誘引していくことになります。

国民生活に関わる部分としては、再生可能エネルギーのなかでも、特に自家消費を目的とした分散型設備があげられます。こういった分散型設備の導入促進

も重要な政策の一つとされているため、今までより多くの家庭が導入を検討できるようになる可能性があります。これについては家庭用蓄電池や電気自動車(EV)も同様です。また、エネルギー基本計画が掲げる「安定供給」は我々の生活を支える基盤そのものです。その意味において、日本がどのような方針で安定供給を実現しようとしているのかは、国や企業のみならず、国民一人ひとりにとっての重要事といえるでしょう。

上記のように三つの政策文書が策定されたことは非常に重要な成果ですが、これらは大きな政策方針を示したものですので、方針を具体化していくことが今後の課題となります。特に、脱炭素投資の支援や予見可能な事業環境の整備が重要な方針とされていますが、それらをより具体化することは、実際に脱炭素化を進めていく事業者が投資判断を行ううえで非常に重要となります。また、2040年度以降も視野に入れるなら、再生可能エネルギーや原子力といった発電技術のみならず、水素やアンモニアを活用した脱炭素燃料や、排出された炭素の回収・貯留・利活用(CCUS)など、比較的新しい技術の開発や導入にも一層力を入れていかなければなりません。

計画やビジョンの策定はあくまでも入り口です。2050年カーボンニュートラルを真剣に実現しようというのであれば、そこから先も困難な道程です。これ乗り越えていくため、今後も多くの人たちが議論し、知恵を集め、行動していく必要があります。

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
電力ユニット原子力グループ 兼 研究戦略ユニット研究戦略グループ
主任研究員 木村 謙仁 氏

2010年3月 東京大学教養学部 卒業
2012年3月 東京大学大学院総合文化研究科 修士
2015年3月 東京大学大学院工学系研究科 博士
2015年4月 一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 入所 新エネルギーグループ
2018年5月 一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 戦略研究ユニット 原子力グループ

[企画・広報委員会]

対象:委員

3/6
(木)

第92回企画・広報委員会

会場:金沢商工会議所会館 出席者:16名
議題:(1)2024年度事業活動報告および2025年度事業計画(案)について
(2)北陸電力(株)の現状と今後の取り組みについて
講話:高レベル放射性廃棄物の地層処分とその現況について
講師:幸正 勇人氏(原子力発電環境整備機構 地域交流部 地域交流第1グループ グループマネージャー 部長)

[技術委員会]

対象:委員

3/18
(火)

第105回技術委員会

会場:金沢東急ホテル 出席者:12名
議題:(1)2024年度事業活動報告および2025年度事業計画(案)について
(2)発電所の近況
講話:高レベル放射性廃棄物の地層処分について
講師:山田 基幸氏(原子力発電環境整備機構 技術部 部長)

[エネルギー講演会]

対象:会員および一般

(1)講演会

【第一部】

演題:「新時代を迎える原子力～革新炉と医学・宇宙への応用～」

講師:高木 直行氏(東京都市大学大学院 共同原子力専攻(都市大・早大) 理工学部 原子力安全工学科 教授)

10/28
(月)

【第二部】

演題:「来るべき災害に『備えている原子力発電所と備えが必要な我が家』」

講師:上田 司穂氏(NPO法人 富山県防災士会事務局長)

後援:環境とエネルギーを考えるとやま女性の会

会場:ホテルグランテラス富山 申込者数:75名

オンデマンド配信:11月11日(月)～11月25日(月) 申込者数:80名



11/8
(金)

演題:「電力問題から考える地域創生戦略」

講師:山本 隆三氏(常葉大学名誉教授 NPO法人国際環境経済研究所 副理事長兼所長)

共催:石川県商工会議所連合会

後援:富山県商工会議所連合会 福井県商工会議所連合会

協賛:(一社)日本原子力産業協会

会場:金沢商工会議所会館 申込者数:61名

オンデマンド配信:11月21日(木)～12月5日(木) 申込者数:94名



【第一部】講演

演題:「暮らしの中の放射線～放射線の基礎知識と利用～」

講師:岡田 往子氏(内閣府原子力委員会委員 東京都市大学 理工学部 客員教授)

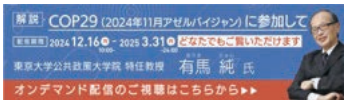
12/11
(水)

【第二部】弦楽四重奏(オーケストラ・アンサンブル金沢)

会場:金沢東急ホテル 申込者数:72名



(2) 動画解説等

11/19~ (火)	タイトル:「わっさんのエネルギーそもそも」 テーマ1:「エネルギー・ミックス」ってそもそも? 講 師: 村上 朋子氏(一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 電力ユニット上級スペシャリスト) テーマ2:「放射線」ってそもそも? 講 師: 齋藤 淳一氏(富山大学放射線診断・治療学講座 放射線腫瘍学部門 教授 北陸原子力懇談会 技術委員会委員) テーマ3:「原子力発電」ってそもそも? 講 師: 安田 仲宏氏(福井大学附属国際原子力工学研究所 教授 北陸原子力懇談会 技術委員会委員)	
12/16 (月) ~3/31 (月)	演 題:「COP29(2024年11月アゼルバイジャン)に参加してー資金目標、緩和をめぐる深まる先進国・途上国の対立ー」 講 師: 有馬 純氏(東京大学公共政策大学院 特任教授)	
12/25 (水) ~3/31 (月)	演 題:「暮らしの中の放射線～放射線の基礎知識と利用～」 講 師: 岡田 往子氏(内閣府原子力委員会委員 東京都市大学 理工学部 客員教授)	
3/6~ (木)	演 題:「第7次エネルギー基本計画の論点、原子力の最大限活用に向けて」 講 師: 黒崎 健氏(京都大学 複合原子力科学研究所 所長・教授 総合資源エネルギー調査会 電気・ガス事業分科会 原子力小委員会 委員長)	

[セミナー・研修会等] 対象: 高専・大学生・次世代層・放射線取扱従事者

(1) 放射線セミナー

10/22 (火) ~28 (月)	オンライン講義	受講者: 福井工業高等専門学校 物質工学科2年生 30名 演 題:「放射線の基礎知識」 講 師: 瓜谷 章氏(名古屋大学大学院工学研究科 総合エネルギー工学専攻 教授)
10/29 (火)	実習	受講者: 福井工業高等専門学校 物質工学科2年生 39名 演 題:「放射線の測定と遮へい効果」 講 師: 瓜谷 章氏(名古屋大学大学院工学研究科 総合エネルギー工学専攻 教授)
11/14 (木)		受講者: 北陸学院中学校1年生 30名 演 題:「放射線の基礎知識」/「研究施設見学会」/「放射線の飛跡を見てみよう(霧箱の観察)」 講 師: 木村 寛之氏(金沢大学 疾患モデル総合研究センター 疾患解析プローブ・ケミカル分野 アイソトープ総合研究施設 施設長)

(2) エネルギーセミナー

10/10 (木)	受講者: 福井県立大学 経済学部3年生 20名 演 題:「国際情勢を踏まえた日本のエネルギー政策ー第7次エネルギー基本政策の議論から考えるー」 講 師: 村上 朋子氏(一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 電力ユニット 上級スペシャリスト)
2/10 (月)	受講者: 北陸学院中学校1～3年生 104名 演 題:「エネルギーの現状と課題」 講 師: 渥美 寿雄氏(近畿大学 理工学部エネルギー物質学科 教授)

(3) 放射線取扱技術研修会

3/4 (火)	会 場: 金沢ニューグランドホテル 受講者: 27名 【講演1】 演 題:「最近の放射線規制の動向(放射性同位元素等規制法関連)」 講 師: 宮脇 豊氏(原子力規制委員会 原子力規制庁 長官官房放射線防護グループ 放射線規制部門 安全管理調査官) 田村 康明氏(原子力規制委員会 原子力規制庁 長官官房放射線防護グループ 放射線規制部門 審査係員) 【講演2】 演 題:「全国の放射線作業従事者管理の統一化に向けて」 講 師: 渡部 浩司氏(東北大学 先端量子ビーム科学研究センター 副センター長 放射線管理研究部 教授) 【講演3】 演 題:「核医学治療の現状と将来展望」 講 師: 若林 大志氏(金沢大学附属病院 核医学診療科 講師) 共 催: 北陸地域アイソトープ研究会
------------	--

(4) その他 学習会等

11/9 (土)	「青少年のための科学の祭典」ブース出典 場 所: 福井県児童科学館 参加者: 約100名
3/1 (土)	金沢子ども科学財団「アリス館志賀・原子力技術研修センターで学ぼう!」 対 象: 小学校4年生～中学校3年生と保護者 見学先: 北陸電力(株)アリス館志賀・原子力技術研修センター、日本海発電(株)福浦風力発電所 参加者: 21名

[見学会] 対象: 会員・高専・大学生

(1) 会員対象	11月20日(水) 富山発 19名(北陸電力(株)志賀原子力発電所) 2月26日(水) 金沢発【再設定】※ 11名(北陸電力(株)志賀原子力発電所) 2月27日(木) 金沢発【再設定】※ 14名(北陸電力(株)志賀原子力発電所) ※11月26日(火) 発生の地震(震度5弱)により「11月27日(水) 金沢発」「12月3日(火) 福井発」見学会の中止のため
(2) 高校・大学生対象	1月23日(木) 金沢大学 疾患モデル総合研究センター 疾患解析プローブ・ケミカル分野 アイソトープ総合研究施設長他 2名(北陸電力(株)志賀原子力発電所) 2月14日(金) 福井工業大学工学部原子力技術応用工学科1年生 10名(関西電力(株)美浜原子力 発電所 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所)

[第47回児童図画コンクール] 対象: 小学校4年～6年

テーマ:「みんなで えがこう 未来の社会」	[審査結果]	応募校数	応募点数	学校賞	個人賞
募集期間: 7月18日(木)～9月12日(木)	富山県	8校	244点	3校	32名
募集対象: 小学校4～6年生 富山県、石川県、福井県(敦賀以北)	石川県	7校	91点	2校	10名
後 援: 富山県教育委員会、石川県教育委員会、福井県教育委員会	福井県	26校	278点	5校	35名
	計	41校	613点	10校	77名
	※「入賞作品集」制作、HPIにも掲載				

[情報提供] 対象: 会員および一般

[寄稿文]

「ほくげんこんエネルギー・コラム これってどうなの?」 ヒロ・ミズカミ代表 水上 裕康氏 12月 No.05 「合言葉は24/7(トゥエンティフォー・セブン)～テック企業の頼りは“休まず店を開く脱炭素電源”～」 3月 No.06 「2050年カーボンニュートラルの旅～人類は“水素社会”にたどり着くのか～」	 
--	---

[講演録]

一部:「新時代を迎える原子力～革新炉と医学・宇宙への応用(高木 直行氏)」 二部:「来るべき災害に『備えている原子力発電所と備えが必要な我が家』 (上田 司穂氏)」(12月) 「電力問題から考える地域創生戦略(山本 隆三氏)」(12月) 「暮らしの中の放射線～放射線の基礎知識と利用～(岡田 往子氏)」(1月)	  
---	---

放射線について知ろう！ 金沢大学アイソトープ総合研究施設見学会

北陸原子力懇談会では、次世代層を対象に原子力や放射線に関する基礎知識を深めてもらうことを目的にセミナーや見学会を実施しています。

2024年11月14日に金沢大学と共催で、医療分野で役立っている放射線にフォーカスし「国立大学法人金沢大学アイソトープ総合研究施設」の見学会を北陸学院中学校1年生の皆様を対象に実施しました。



【見学日】2024年11月14日(木) 13:15～15:50

【見学場所】金沢大学疾患モデル総合研究センター
アイソトープ総合研究施設(石川県金沢市宝町13番1号)

【参加者】北陸学院中学校1年生 30名

【見学内容】

①放射線の概要説明(約30分)

- ・放射線の基礎知識
- ・研究施設のあらまし、各フロアの説明
- ・放射線の利用方法
- ・最新の研究

②施設見学(約60分)

- ・各フロアの見学
- ・放射線の飛跡を見てみよう(霧箱)の観察

③終わりに

- ・質疑応答
- ・先生から学生への応援メッセージ

アイソトープとは、同じ(アイソ:iso)位置(トープ:tope)という意味で、ギリシャ語から借用して作られた言葉です。すべての物質を構成している原子は、原子核(陽子と中性子)と、その周りを回る電子からできています。このうち、陽子の数が同じで、中性子の個数が異なっている原子同士は、質量は異なりますが、化学的性質は同じであることから同じ元素に分類され、元素周期表の同じ位置にあるという意味で、「アイソトープ」(同位体)といいます。また、その中でも放射線の出すものを「ラジオアイソトープ」(RI:放射性同位体)といいます。

金沢大学疾患モデル総合研究センター アイソトープ総合研究施設では、主に医療への応用を目指した研究が進められており、病気を「見える化」するための画像診断薬や治療薬を研究しています。

ラジオアイソトープと薬品を混ぜた「放射性医薬品」を人に注射することにより、放射性医薬品がどこに、どのような速さで、どれだけ集まってくるかを調べることで、外部から見えない病気の場所や臓器の状況を「放射線」という信号で知らせてくれるため、他の検査と組み合わせることで効果的な治療ができます。



見学会を実施して



木村 寛之 氏

元金沢大学 疾患モデル総合研究センター疾患解析プロープ・ケミカル分野 アイソトープ総合研究施設 施設長

11月14日(木)に、北陸原子力懇談会様からお声がけいただき、北陸学院中学校1年生30人を対象に「放射線について知ろう!金沢大学アイソトープ総合研究施設見学会」を共同で実施しました。

私からは、「透過性の高い放射線を出す薬を患者に投与し画像診断技術(もしくは装置)によって、見えない病気の場所や臓器の状態を「見える化」することで、多くの患者を助けている」といったことや、大学発の創薬を目指して日々研究に取り組んでいることを説明いたしました。

放射線の基礎知識の講義の後には、画像診断薬の成分を分析するHPLC(高速液体クロマトグラフィー)や動物用のSPECT撮影(単一光子放射断層撮影)装置を見学し、最後に霧箱を使って放射線の飛跡が見える原理や実際に見えた α 線や β 線について「科学の不思議」を体験してもらいました。

質疑応答では、「放射線はどのくらいの種類があるのか」や「なぜ管理区域ではスリッパを履き替えるのか」など多くの質問が出たため、「 α 線、 β 線、 γ 線や中性子線、X線など色々あること」や「放射性物質は絶対に管理区域外に出してはいけないので、汚染が広がらないようにしている」など、多くの鋭い質問に答えました。

今回の見学会を通じ、中学生の元気なパワーをもらい、私自身も楽しい時間を過ごせました。

放射線と聞くと「目に見えない＝怖い」と思うかもしれませんが、子供たちの疑問に丁寧に答えていくことで少しでも放射線について理解を深めるお手伝いになれば幸いです。

見学会に参加して



岡崎 裕一 氏

北陸学院中学校 教頭

この度、本校の中学1年生を伴い、「放射線について知ろう!金沢大学アイソトープ総合研究施設見学会」に参加いたしました。

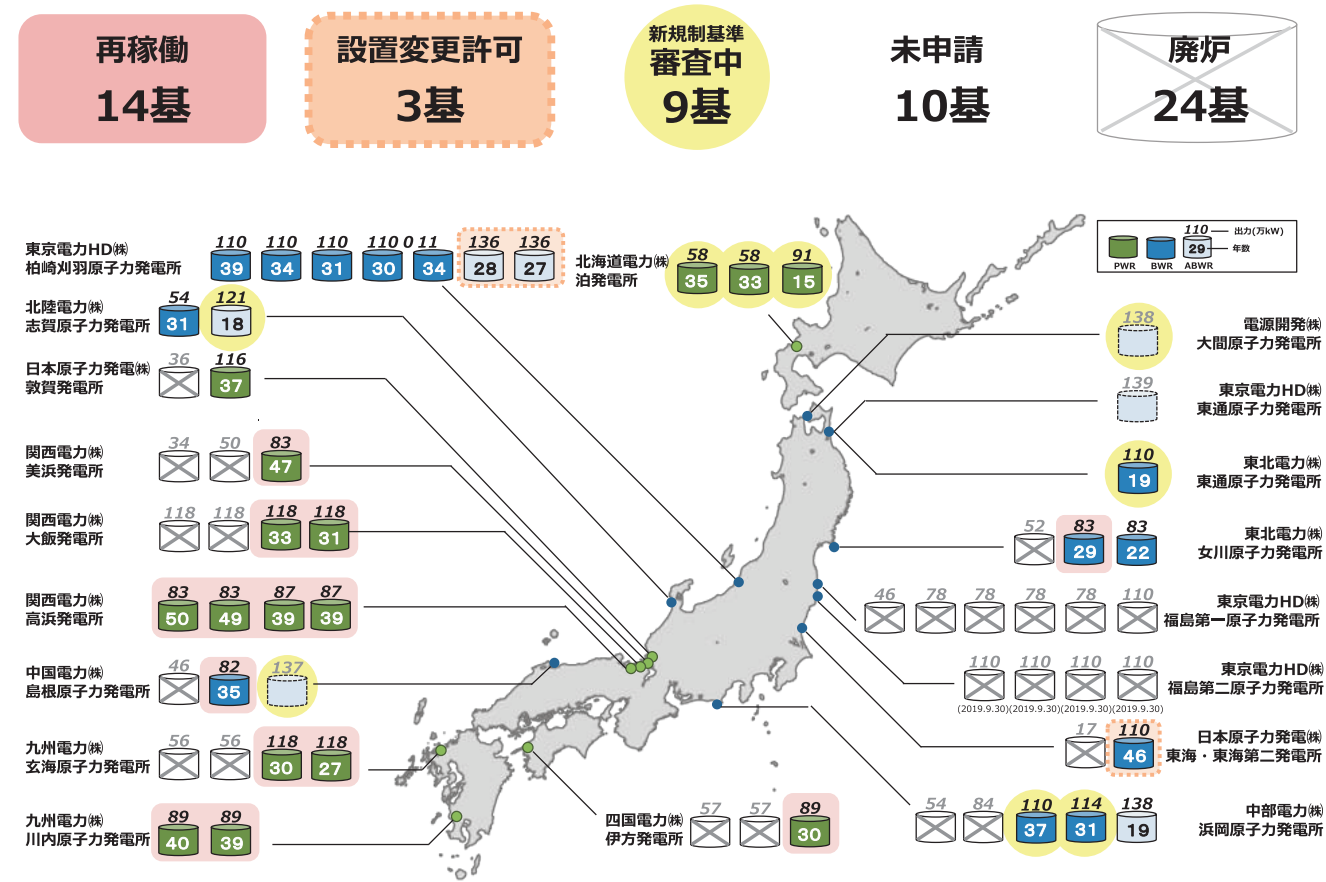
放射線は中学生たちにとって少し難しい内容ではあったものの、わかりやすく作って頂いたパワーポイントやそれぞれの研究室での丁寧な紹介、霧箱実験などを通して、放射線の医療利用や科学に対する不思議を文字通り「体験」しながら学べる良い見学会となりました。

私は専門が物理の教員ということもあり、放射線や原子力発電についてもデータを元にニュースなどを見るようにしていますし、良い面もあれば悪い面もあるという両方の立場から物事を見るようにいつも意識しています。しかし教育現場では、「放射線」や「原子力」という言葉だけが先走って、どちらかというネガティブに扱われていることがまだまだ多いと感じており、教育の大きな課題として感じています。教員がそのような偏った発想のままだと生徒たち自身が科学的に考えたり、それをもとに物事を判断したりする機会を奪っているかもしれません。

今回のような体験会を通して、いろいろな知識や立場に触れることで生徒たちの視点を増やしていき、最終的には生徒たち一人ひとりが自分で考えて意見をもち、判断すれば良いというのが私の考えです。その点ではこの見学会は間違いなく、生徒たちにとって有意義なものであったと確信しております。金沢大学と本校は歩いて数分のところにありますので、このつながりを大切に、今後も交流ができれば嬉しく思います。

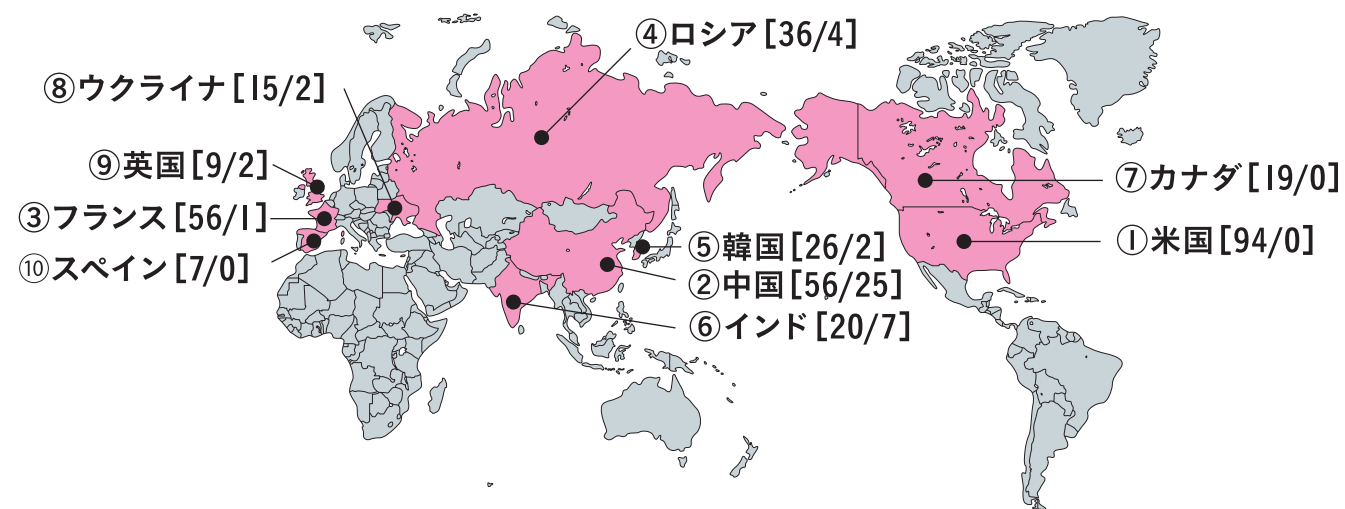
日本の原子力発電所の現状

2025年1月7日時点



世界の原子力利用上位10ヶ国（日本を除く）

2024年6月時点



凡例：[運転中の基数／建設中の基数]

出典：経済産業省 資源エネルギー庁「エネルギーを巡るエネルギー・原子力政策について（令和7年1月）」より作成

「わっさんのエネルギー“そもそも”」を制作して



新しい試みとして“若年層向け”に「エネルギー」「放射線」「原子力」について理解を深めてもらうために、約3分で解説する『わっさんのエネルギー“そもそも”』を制作しました。2024年7月、北陸原子力懇談会に着任した「わっさん」こと渡野が、「エネルギーについて今更けど“そもそも”知りたいこと」をコンセプトに専門家の先生に質問をしています。質問の内容は大学生の皆様からのアンケートを参考に設定しました。

1つ目のテーマは「エネルギー・ミックス」についてです。日本エネルギー経済研究所の村上朋子先生に解説をしていただきました。エネルギー・ミックスの基礎やエネルギー自給率、原子力発電のメリット・デメリットについて質問をしました。

2つ目のテーマは「放射線」です。富山大学で放射線診断や放射線治療を行っている齋藤淳一先生に解説をしていただきました。放射線の基礎から放射線の人体への影響、日常生活に役立つ放射線について質問をしました。

3つ目のテーマは「原子力発電」についてです。福井大学附属国際原子力工学研究所教授の安田仲宏先生に解説をしていただきました。原子力発電所のしく

みや原子力の安全確保、防災対応について質問をしました。

どの動画も「聞いたことあるけど、よくわからない。」を解決する動画に仕上がりました。動画は当懇談会HPよりご覧いただけます。また、当懇談会が実施している見学会のバスの中でもご覧いただいております。

難しいけれど、私たちの生活にとって大切なエネルギー、放射線、原子力について、皆様をはじめ、若年層の皆様にもご周知いただき、より多くの方にご覧いただけたらと思います。



サイトページ
「わっさんのエネルギー“そもそも”」

収録裏話（わっさんの感想）

最初は、「原稿の通りしゃべればいいし、そんなにたくさんセリフもない大丈夫！」なんて、簡単に考えていましたが、いざカメラを向けられると、頭が真っ白に…。何度セリフを覚え直してもなかなかうまくいきません。思い出そうとすると次は表情が硬くなってしまい、やり直し。大したセリフはありませんでしたがとても緊張しました。

先生方はさすが、落ち着いてお話をされ、私の失敗には優しく見守っていただきました。

また、意外なところで、声だけ収録するタイトルコールも、オーバーに明るく表現する必要があり、これがまた恥ずかしかったです。ご協力くださる皆様がいろんな方法で私の気持ちを盛り上げてくださり、何とか完成しました。

動画解説

「第7次エネルギー基本計画の論点、原子力の最大限活用に向けて」



講師：黒崎 健氏(京都大学 複合原子力科学研究所 所長・教授
総合資源エネルギー調査会 電気・ガス事業分科会 原子力小委員会 委員長)

「わっさんのエネルギーそもそも」



テーマ1：「エネルギー・ミックス」ってそもそも？
(一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 電力ユニット 上級スペシャリスト 村上 朋子氏)

テーマ2：「放射線」ってそもそも？
(富山大学放射線診断・治療学講座 放射線腫瘍学部門 教授／北陸原子力懇談会 技術委員会委員 齋藤 淳一氏)

テーマ3：「原子力発電」ってそもそも？
(福井大学附属国際原子力工学研究所 教授／北陸原子力懇談会 技術委員会委員 安田 仲宏氏)

新規会員ご紹介のお願い

北陸原子力懇談会は、北陸の産業経済人が中心となり、1977年に設立されました。主に北陸地域における「原子力開発・利用と放射線利用の促進ならびに原子力産業の発展に寄与すること」を目的とし活動しています。

つきましては、当懇談会の事業活動にご賛同いただける会員企業・団体を募集しています。会員に対しましては、当懇談会の会報誌をお届けするとともに、エネルギーに関する情報のご提供、講演会や見学会などのご案内をお送りいたします。

皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年会費(1口)：法人 10,000円(1口以上)／団体 5,000円(1口以上)

(入会お申込みは、下記、当懇談会までご連絡ください。)

北陸原子力懇談会

専務理事 米原 禎
事務局長 高田 香里
技術部次長(兼)広報部次長
安井 久貴
企画部主任(兼)広報部主任
渡野 祭花
事務局主任 渡辺 まり子

ほくげんこん 北陸原子力懇談会

〒920-0918 金沢市尾山町9-13 金沢商工会議所会館3F
TEL: 076(222)6523 FAX: 076(222)8925



URL: <https://h-genkon.jp>